

4月9日、JR東海労名古屋地本は会社と平成27年度事業運営について経営協議会を開催し協議を行いました。

会社は組合の問題提起に対して 真摯に受け止め改善すること！

JR東海労の具体的主張

- 中央線南木曾～十二兼間における徐行運転について
- 駅での安全確保と旅客の駆け込み乗車に対する対策
- 武豊線電化による労働強化について
- CMC会社の問題解決について

会社の平成27年度事業運営の基本方針

1. 安全・安定輸送確保に向けた着実な取り組み
2. 質の高い親和感のあるお客様サービスの追求
3. 将来を見据えた業務遂行体制の構築に向けた取り組み
4. 鉄道のプロとしての意識の醸成と明るく活力のある職場づくりの推進

山田委員長の主張

1. この間の安全対策にいまだに改善されていない部分がある、労働組合の問題提起に対して真摯に意見を聞き、すぐに改善していく姿勢が大切である。
2. 昨年、中央線中央線南木曾～十二兼間での土石流による事故では人命に関わるような事象はなく、関係社員の懸命な努力により早期の復旧がなされたが、今だ現場では徐行運転がされています。運転士の判断のみで運転されていることであり、安全性を高めるためにも機械的な整備で安全確保をすること。
3. 車掌は列車の発車時には旅客の駆け込み、車両への接近等により大きな負担が掛かっている。人間の注意力にだけに頼るのではなく、それを補完する安全柵の設置を早急に実施すること。
4. 3月ダイヤ改正で武豊線が電化されたことにより武豊発岐阜行き直通列車などが運転され利便性は高まっていますが、それに伴い車掌の乗務行路が6時間近い連続乗務の行路が発生している。労働条件の悪化で事故のリスクが高まっている。高山線、太

多線での75形列車のワンマン機器の故障は準備不足によるものである。早急に対策と改善を求める。

5. 昨年、CMC会社との団体交渉を開催したがJR東海会社の設備であり解決出来ないとの回答であった。その後JR東海会社に申し入れをするとCMC会社の事と逃げている。CMCの職場改善要求にも責任を持って努力すること。

具体的な議論

組合：名古屋駅5番線ホームでの出区点検のやり方を変えたのはなぜか。

会社：総合的に判断してやり方を変えた。

組合：中央線中央線南木曾～十二兼間の徐行運転は運転士の注意力のみで行っている。いつまで続けるのか。

会社：現在は瞬間徐行の運転を続ける様に指導している。

組合：ホームドア、もしくは安全柵の設置ほどの様に考えているのか。

会社：やりたと思っている。強度、スペースの問題、特急列車と通勤列車との車両長の違いなどがあり、もう少し勉強し将来的には導入ししたい。

組合：基本方針の中で言われている親和感とは何か。

会社：目指すところは、お客様の喜びが自分自身の喜びとなる様に社員が日常、仕事の中でお客様の為に何が出来るのか考え実行し、その事により自分に満足を得られることである。

組合：会社は人と投資を減らし効率的な経営による収益の向上を目指しているが、現場で働く社員への締め付けと我慢を強要しているだけである。もっと社員が喜びを持てる施策を実施すべきである

以上